

# 第一回 荒川区区政改革懇談会 会議録

[日 時]平成 17 年 7 月 16 日(土)10:00~12:00

[場 所]サンパール荒川 5階 末広

## [会議次第]

- |           |                    |
|-----------|--------------------|
| 1 開会      | 5 全体説明 会の目的と進め方の確認 |
| 2 区側出席者紹介 | 6 グループ討議           |
| 3 委嘱状授与   | 7 閉会               |
| 4 区長挨拶    |                    |

## [資料内容]

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| ・第一回 荒川区区政改革懇談会資料   | ・荒川区財政のあらまし          |
| ・タイムテーブル            | ・平成17年度 荒川区予算の概要     |
| ・第二十九回 荒川区政世論調査結果概要 | ・荒川区 区政改革懇談会別冊資料集    |
| ・グラフで見る荒川区の概観       | ・あらかわってこんなまち(ガイドマップ) |

## 1. 開会

事務局より開会宣言

ケーブルテレビ・区報等用の写真撮影の許可をとる。

## 2. 区側出席者紹介

以下の順で紹介した。

西川太一郎 荒川区長

三嶋重信 助役

大渕義明 収入役

川寄祐弘 教育長

鈴木尚志 総合企画部長

北川嘉昭 総合企画部総務企画課長

(基本構想PTメンバー)

中山淳一 経理部営繕課長

小林清美 地域振興部戸籍住民記録課長

濱島明光 保健福祉部高齢者保健福祉課長

石澤宏 保健福祉部生活衛生課長

松土民雄 土木部公園緑地課長

青山敏郎 教育委員会事務局学務課長

(コンサルタント)

(株) 日本能率協会総合研究所

(司会)

後藤徹也 総合企画部企画担当課長

### 3. 委嘱状授与



### 4. 区長挨拶

荒川区区政改革懇談会の発足に際しまして、ご挨拶を申し上げさせていただきます。皆様には積極的にご参加を賜りまして、心から御礼申し上げます。

お忙しい中、本日は1回目の懇談会を催しましたところ、このように多数の方々にご参加をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

さきほど、委員お一人お一人に委嘱状をお渡し申し上げましたが、本当に心強いメンバーに集まっていたいただき、有難く思っております。

区民を幸せにするシステムが荒川区政です。区政はサービス業であります。しかし競争相手を欠く独占的なサービス業でありますから、絶えず自戒と深い反省を忘れず、また大きな希望や夢や、将来に対する見通しを持った区民サービスを展開しなければいけないと考えております。

今日、地方がいろいろな形で権能を持つようになってまいりました。たとえば、かつての区長の名刺には「東京都荒川区長」と書いてありました。今、23区長会で初めてそれぞれが出会った時に交わしました名刺を見てみると、だれひとり、自分の区の上に「東京都」という名前をつけている区長はおりません。

平成12年、都区制度改革により区は東京都と対等な関係に立ちました。このことは意外に区民の方々に知られていない事実でありまして、区は東京都の下部団体であるというような考え方が未だ多いように私は思います。しかし決してそうではないのです。

23区が一緒になると大変な人口規模であり、800万人を超える巨大都市になります。その中において23区でお互いに連携を図りつつ、小さくてもしっかりと存在価値のある荒川区というものをこれからどうやって作っていくか。そして区民の幸せのために、どんなメニューを求めていくことができるか。職員がそれをどう理解してどう進めていくか。これに対して区民からどういう反

応、ご意見が出て、そして改められていくか。こういうことの循環の中で私たちは目的を達成していかなくてはならないと考えております。

将来、国から色々な提案が出てくるものと想像します。たとえば、道州制などというものができて、基礎的自治体は30万人くらいを人口の規模として再編を迫られるかもしれません。そのときに、今20万人に手が届きそうな荒川区が、一体どういう姿で、その要件を満たしていくことができるのだろうか。また、特徴のない荒川区がどういう、良い意味での特徴を持てるか。財政力の弱い荒川区がどういうふうになれるのか、そして今提唱している新産業が、どうすれば根付くのだろうか。



交通環境が画期的に向上した荒川区、たとえばこの8月にはつくばエクスプレスが開通し、年間400万人の人が南千住駅周辺を利用する。また、国の玄関である成田、新東京国際空港から40分を切って日暮里にエクスプレスが着く。また新しく日暮里舎人新線も開業します。

こうした所与の条件の中で荒川区がどうこれを生かし、どう育っていくか。私はそういう意味で色々な試みを区長就任からの240数日の間で展開して参りました。

私自身の退職金を区にお返し申し上げ、ただ漠然とそれが一般的に使われるのではなくて、返した以上、それをこういう形で使っていただきたいという希望を申し上げた。具体的には1700人の区の職員のパワーアップ研修のため、荒川ビジネスカレッジという職員向けの、カレッジを作りました。

また、それ以外にも色々なことを試みました。昨日は子ども区報、荒川区報ジュニア版というのを子どもたちに向けて、君たちはこうやって大切にされているんだ、みんなが見守ってくれているんだ、良い体験を積んで欲しい、といったことを収集して発刊したところ、読売新聞に大きくカラー写真入りで取り上げていただきましたし、近隣の区からも引きあいがありました。また教育機関からは外国人留学生の日本語の教材として使わせて欲しいという申し入れが、すでに発刊日に届きました。

このように私たちは荒川区を誰もが誇りを感じることでできるまちにしていきたい、そう思って、区民の皆様から委員を広く募集しましたところ、区政モニターの経験を持つ方、また、今までは区政から距離をとられていた方、また若い方々、ご高齢の方々、大変バランスの良い皆様方に、ここにお集まりいただきました。お仕事をとつても、専門的なお仕事、また海外でのご経験のある方、伝統的な老舗のご主人など、いろいろな方々がこうやってお集まりいただきました。まさに、人口規模が19万1千人にふくれあがった荒川区の素晴らしい代表者であると、私は理解をしております。

そしてこの会はただ漫然と会を行うのではなく、きわめて短期間に身のある協議を進めていただくために、優れた、経験を積んでいらっしゃるコンサルティング会社にも参加をしていただき、さらにはいろいろな形で区の職員との交流などをしていただきながら、ご経験やお気づきの点を盛りだくさんに私どもに教えていただきたいと思っております。

先ほどお話がありましたように、しかる後には専門分野にもわけて将来を考えていただきたい。たとえば、荒川区の教育を考える100人の会、荒川区の新産業を考える50人の会のようなものを

あらゆる分野に作って参りたいと思っております。

一方で、みなさんからいただいたご意見を参考にしながら、専門的な学者、経験者の方々に加わっていただき、最終的に、荒川区の航海図でもある、素晴らしい新たな基本構想を策定したいと思っております。

どうぞ、私どものふるさとを愛し、主権者であるお互いが力を出し合って、共にこの荒川区を子々孫々、値打ちあるものに育てていただきたい。

眼目は特徴をもつことでもない、色々なことを言いながらも私はそう思います。そして最後にやっぱり今いらっしゃる方々が、こうしたらもっと住みやすい、住みがいのある、誰がここにきて住んでも文句のない、そういうような温かい、豊かな、心やさしい、そんなふるさとをみんなで作っていききたい。そのためのご提言を考えていただきたく、お願いを申し上げます。

いろいろ申し上げましたが、皆様のご活躍を心からご期待申し上げまして、区長としての、ご参加いただきました皆様に深甚なる敬意と感謝の気持ちをこめ、ご挨拶とさせていただきます。暑くなりますので、どうぞご健康には十分お気をつけいただきまして、区政全般に、ご貢献賜りますよう重ねてお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

以上

## 5. 全体説明 会の目的と進め方の確認

事務局・コンサルタントにより、会の目的と進め方が資料に沿って説明された。

## 6. グループ討議

グループ毎に討議を行なった。(内容についてはグループごとのページを参照)

## 7. 閉会

事務局より閉会宣言